

おくまんさま

春号 令和5年4月15日発行 第87号

◇ 天神様ご例祭・おかげらまつり

四月二十五日は天神様のご例祭です。今年も天候に恵まれて田植えが順調に行われるように御神前に祝詞を奏上します。また家内安全・無病息災の願いを込めたお札を各家庭にお配りします。どうぞお受けください。またこの春受験に合格された方々は合格鉢巻を神社にご返納ください。

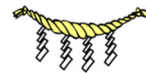


また四月二十九日はおかげらまつりです。今年はずいぶんおかげらまつりにおかげらまつり村内を練り歩きますので、どうぞ楽しみにお待ちください。



◇ しめ縄製作

今年も宝地区有志の皆さんがしめ縄をなつて下さいました。毎年新しいしめ縄を奉納していただき神様もお喜びのことと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



◇ 児童安全祈願祭

少子高齢化が進む中、地域の中で大切な存在である子供さんが安全に通学し、外遊びができますようご祈願し、お守りの笛をお渡しいたします。当日申し込みもできますが、お時間をいただく場合がありますのでなるべく事前にご予約をお願いいたします。



◇ 山菜採り安全祈願祭

五月二日おくまんさままで

山菜採り安全祈願祭を執り行います。御神前に安全を祈願いたします。遭難せぬよう気を引き締めて安全を御祈願ください。



◇ 間伐事業関連のお知らせ

四月十七日以降、神社入り口付近に砂利を敷く工事を行います。それまでは神社入り口付近は泥濘があり靴や車が汚れやすくなっておりますのでお足もとに気を付けてください。



また間伐作業で開設した道路は作業道です。随所にぬかるみ、倒木、落石があり、安全な道路ではありません。山菜採りの季節が近づいておりますが、もし通

行される場合、万一転倒などで怪我などをされても、神社や作業業者では責任は負いかねますので、十分ご注意の上、ご通行ください。



◇ あとがき

あと一か月ほどでコロナ感染症が五類から二類に引き下げとなり、行動制限もなくなります。これをうけて大祭の準備も本格化してきています。コロナを乗り越え、明治以来十二回目の奴振りと鹿子踊を成功させ、大祭を通じて地域が発展し、貴重な文化遺産を次の世代に承継するために、力を合わせて頑張りましょう。



大祭特集

前回大祭後に御神輿の大規模な修理を行いました。今風に言えばレストアとなります。

今回はその様子を紹介します。

○修理前の状況

御神輿は神様が乗りになる大切な乗り物ですが、風雨にさらされる他、長い年月にわたり使用されるため、実はとても傷みやすい乗り物です。

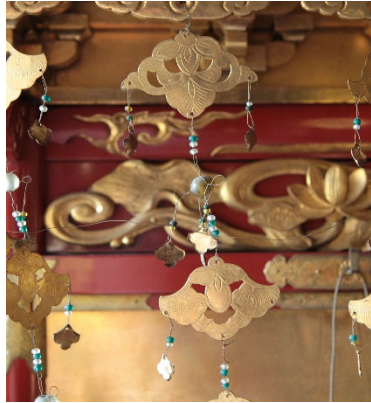


写真は前回大祭時のものが、前回の大祭が終わった後おみこしを点検してみると各部の痛みが非常に進んだ状態でした。細かい部分の破損や欠損が多数あり、漆塗りがはがれた部分も多く、また胴体（堂）の周りを取り囲む垂れ飾り（瓔珞）も部品が欠損したり絡まって取れなくなっていたりして修理が必要な状態でした。

下の写真は漆がはがれた欄干（囲垣）です。柱の金具（棒先金具）も傷んでいます。



小さい写真で分かりづらいですが、瓔珞は絡まりあい、真中の部品は右側の玉がとれています。



このような状況を受け、修復委員会が発足し、山形市の森谷大仏堂に点検を依頼しました。その結果、堂が全体的に歪んでおり、屋根（露盤）の取付部もガタガタで全面的な修理が必要と判断され、そのまま修理することになりました。

○修理の状況

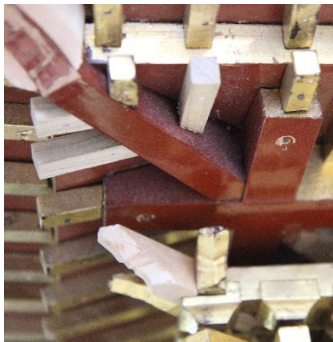
御神輿はいったん全部解体し

塗り直し、組み直し、修理、追加を行いました。

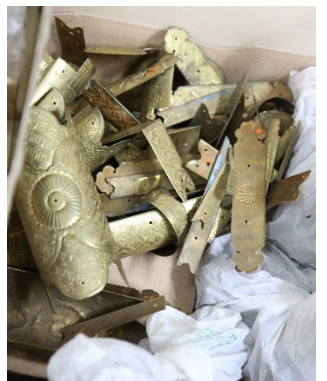
露盤は塗り替えをしたほか屋根の補強部分（野筋）を追加し、軒先四隅の飾り（蕨手）も補強しました。



軒先の垂木部分（桷組）も破損、欠損が多かったため補修、追加、塗り直しを行いました。



彫金類（台輪金物など）もすべて取り外し、磨きなおしをして、破損がひどい部品は作り直し、あるべき部品がなかった場合は新調して金メッキ（鍍金）しました。（下の写真）



写真では見づらいますが、修理の過程で大正六年九月に谷地の大工さんが修理した墨書きが発見されました。貴重な発見です。



今回の修理に当たっては、破損箇所を修復する他、小鳥、風鐸、野筋、戸脇等本来あるべき部品を追加しました。写真は



修理後の囲垣と露盤です。



こうして約五年にわたる大修理を経て昨年九月御神輿の修理は完成し、御神輿は以前よりさらに輝かしい姿となって大祭への御出御を待つておられます。

御神輿修理に当たり、地区民の皆様には組織面また金銭面その他多岐にわたり多大なるご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。

